



# スルメイカ

## 冬季発生群

主な漁業と漁期

定置網: 周年  
釣: 5月～翌年2月

## 生態

スルメイカは日本各地に分布し、冬季と秋季に発生する冬季発生群と秋季発生群の資源量が卓越しています。太平洋側では主に冬季発生群が漁獲されます。幼体は本州以南の暖水域に分布し、黒潮によって北方冷水域へ移送されながら成長し、また、成熟が進むにつれ北方から南方暖水域に回遊すると考えられています。

### ●産卵場・産卵期

九州周辺海域での成熟個体や孵化直後と推定される幼生の分布から、産卵場は東シナ海と推定されています。産卵期は幼生の出現頻度や産卵群の出現状況から12月～翌年3月と推定されています。

### ●食性

動物プランクトン、小型魚類、イカ類などを捕食します。

### ●成長・成熟

寿命は1年程度です。メスはオスに比べて体が大きくなり、オスでは孵化後約6ヶ月以降、メスでは約7ヶ月以降に成熟を開始します。また、初夏に漁獲される外套背長20cm以下の小型個体はムギイカなどと呼ばれています。

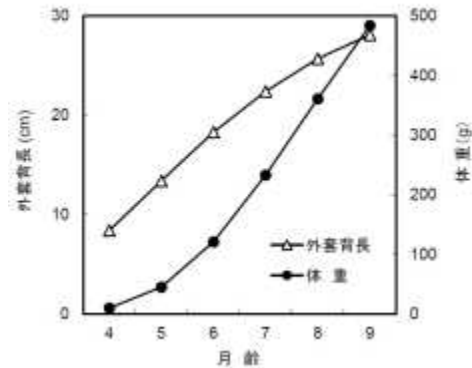


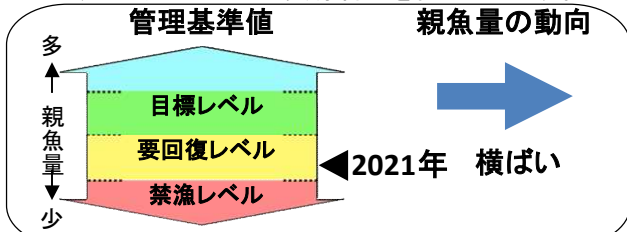
図 月齢と成長

(引用元: 令和4年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価)

## 漁業・資源動向

### 【資源】

スルメイカ冬季発生系群は、最大持続生産量(長期的に漁獲量が最大となる資源状態を維持することで得られる漁獲量 以下、MSY)に基づいた資源管理を行っています。



- 1 本系群の資源量は約50万～100万トンの範囲で推移しましたが、2015年以降減少に転じ、2021年の資源量は12.3万トンと低調に推移しています。
- 2 2021年の親魚量は4.8万トンと推定され、MSYを実現する目標レベル(23.4万トン)を下回っています。また、本系群に対する漁獲圧はMSYを実現する水準を下回っています。親魚量の動向は、過去5年間の推移から横ばいと判断されています。

国の資源評価へのリンクはこちら

簡易版

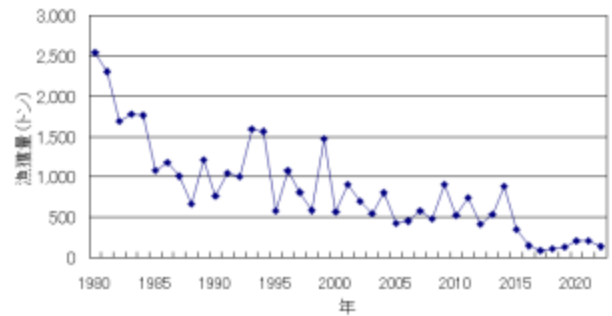
[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/simple\\_2022\\_18.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/simple_2022_18.pdf)

詳細版

[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/details\\_2022\\_18-Surume-W.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/details_2022_18-Surume-W.pdf)

### 【漁業】

- 1 静岡県では主に定置網や釣りによって漁獲されています。
- 2 定置網の盛漁期は冬で、主に伊豆半島東岸で産卵南下回遊中の群を漁獲します。釣りの盛漁期は夏で、主漁場は駿河湾～石廊崎周辺で、幼体時に本県沿岸域に補給され、そこで成長した群れを漁獲します。
- 3 県内の漁獲量は減少傾向にあり、近年では100トン前後の低水準で推移しています。



本県のスルメイカ漁獲の推移

担当者の一言: イカ類の中でも中腸腺(ワタ)が豊富で美味です。細かく刻んで刺身に付けたり、肝炒めにしても◎

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場 0558-22-0835